

#### 4月8日（金）

おはようございます。

いよいよ新学年が始まりました。清風では毎日朝礼があります。今日は幸福ということについてお話したいと思います。

人はだれでも、幸せになりたいと思っているものだと思います。不幸になりたいと思っている人は一人もいないはずですが。みんな苦しみを感じれば、それから離れて楽になりたいと思うはずですが。

しかし、幸せになりたいけれども、幸せになる方法が分からないものなのです。そこで、幸せになる方法とはどんなものなのでしょうか。

悪人といえども、人に悪いことをして喜んでくれるわけではありません。サイコパスのような病的な人にはそういう人はいるかもしれませんが。それはとても稀でしょう。人にひどいことをやったり言ったりするのはどうしてか。それは、自分が幸せになりたいからなのです。しかしながらそういう仕方では幸せになることはできません。自分に固執して、人にひどいことをやったり言ったりしても幸せにはなることはありません。

私たちの学校は福の神の道を説きます。これは自分を高めることで、人のお役に立とうと、多くの人を幸せにしようとして、こういう気持ちでおることがまず大事なことです。ほかの人のことを、考えてあげて、ほかの人に親切にしてあげるとして、その親切がより効果的なものになるためには、自分を高めておく必要があるのです。そういう利他の気持ちからの行いは、巡り巡って自分に還ってきます。徳という形で還ってくる、これが清風の考え方です。

われわれの幸せの源は、他者です。他者とどのように接触するか、どういう気持ちで接触するかということ、巡り巡って自分の幸せという形となって還ってくるものなのです。世の中の多くの人たちは、ものすごく短いインターバルで得になるか、損になるかをばかり考えているので、結局損をしてしまうのです。

自利利他の道は、自分を高めていくことで、多くの人のお役に立とうという話ではありますが、これは巡り巡って必ず自分に還ってきます。だから自分も他人も幸せになる道であります。こういう道が清風の福の神のコースであるということ、もう一回自覚してもらいたい。これを基本として、本当に幸せになろうという精神でないと、なかなか幸せになれないということ、自覚をしてもらう必要があるのです。

情報化社会は、どの人間でもその人がどんな人間であるかを、赤裸々に顕わにしてしまう時代です。かつて情報の少ない時代では、ある人がどんな人かというのは、どの大学を出た人であるかとか、

どこに勤めている人がぐらいで判断しました。昔は終身雇用でしたから、一生その会社に勤めました。それはそれで結構でした。しかしいまや、そういう時代ではありません。もちろん学力とか、知識は必要です。知恵がないと、物事を解決することはできませんから。多くの課題を解決していくためにも、知識を得て、それを知恵に変えていく必要があります。しかし、情報化社会は、知恵も含めてその人がどういう人となりかを、赤裸々に現してしまいます。そういう意味でこの社会は、本物が輝く時代です。自分をしっかり高めた上で、多くの人を幸せにしようとする気概を持てば、徳という形で自分に還ってきて、自分もまた幸せになるということでもありますので、これを羅針盤にして、しっかり清風での生活を送ってもらいたいと思います。新入生だけでなく、在校生ももう一度、この原点に戻ってがんばってもらいたいと思います。

学校長